

海外での子どもの教育 —異文化の中での母親—

第2回 JAMSNET WORLD @東京女子医大
2015年7月26日(日)

バーンズ亀山静子 ・ 森真佐子

NY日本人教育審議会・教育相談室 包括的アプローチ

<直接的アプローチ>

- **子ども本人**へのカウンセリングやスキルトレーニング。
- **親**とのペアレンティング・ガイダンス
子どもの不適應の原因や発達障害・心の病気についての心理教育、
養育指導、家での対応法や現地校との連携についての相談、
母親への精神的サポート、親の文化的アイデンティティについて
- **家族面接**、**母親**へのサポートグループ。
- **現地校**との連携(担任、カウンセラー、各専門家他)・
その他の機関との連携・訪問相談(補習校、現地校、精神科医等)。

<予防・啓蒙活動>

- **保護者向け**のワークショップ(異文化での子育てなど)。
- **日本人学校・補習授業校等**での教職員研修。

海外赴任に子どもを帯同する

- 「子どもはすぐ慣れる」
- 「現地語がぺらぺらになる」
- 「小さければ小さいほど現地語に長ける」
- 現地の学校に行き、家で日本語で暮らせば「バイリンガルのできあがり！」
- 「日本にいたら触れられない文化に接することができ、人生が豊かになる」
- 国際人の仲間入り



海外赴任に子どもを帯同する

- 「現地語がわからないのでかわいそう」
- 「外国人だからといじめられないか」
- 「言葉がわからず子どもの勉強をみてやれない」
- 「適応できなかつたらどうしよう」
- 「帰ってきてからの受験は大丈夫だろうか」
- 「へんな病気にならないか」
- 「日本語が話せなくなったらどうしよう」
- 「親子のアイデンティティはどうなる？」



日本にはなくて外国では生じること

送り迎え
(車の運転)

弁当作り

プレイデート
のアレンジ

現地語で
のやりとり

帰国後の
プラン

日本語の
保持

父親の子育て
参加

母親のストレス

- 慣れない言語、文化、習慣の中でのストレス
- 所属する「社会」の欠如
- 子育てのサポートシステムの喪失
- 子どもの学校不適應に対する無力感
- 狭い日本人社会の中のストレス
- 自己実現の上での「不本意さ」
- 日本の親族から期待されている「子育ての成功」

母子間のバウンダリーの問題

- 密室の育児
 - サポートシステムを失った状態での育児
- 精神的・物理的なバウンダリーが曖昧になりがち
 - 「子どもの学業の達成＝自分の達成」の勘違い
 - 発達障害があって不適応を起こしている場合、母子の悪循環を引き起こしやすい



親の養育における文化差

- 愛情の表し方
- 減点法 vs 褒めて伸ばす



相談室の調査から (Mori, Barnes et al, 2004-2015)

(2007年からは米国日本人医師会JCOPの支援)

対象:

在米邦人家庭の中高生及びその親
(子ども105名、母親101名、父親49名)

調査目的:

アメリカという異文化において、アイデンティティ形成や分離個体化という難しい発達課題に直面している邦人中高生にとって、どのような要因が心理的健康度(自尊感情とWell-beingを測定)を予測するかを検討する。

子どもの文化的アイデンティティ



多言語・多文化に接する家庭



海外赴任の家族

家族の中の多様性



親のメンタルヘルスに気をつけよう！

親自身のメンタルヘルスが安定



子どもと適切な距離を保つことができる



子どもへの有効な支援が可能

親のメンタルヘルスに気をつけよう！

**母親の心理的健康が
子どもの心理的健康に大切。**

お母さん！
家族のためにも
セルフケアを大切に！

お父さんもね！

